



平成23年度閩住自治公民館長
嶋本 純三 tomoto junzo

地区の役員が中心となって、菜の花を咲かせるためにさまざまな作業を行っています。小さな地区で高齢化も進んでいるので大変なところがありますが、毎年大勢の方々に来てもらっているのでもやりがいがあります。菜の花は閩住地区の自慢であり誇りです。私も日中会社勤めをしていて時間の制約がありますが、定年退職したらもっと地域のために活動したいと考えています。

「菜の花まつり」には地区のほとんどの方が参加するだけでなく、松山市などに住んでいる子どもたちや、孫、親戚などが帰って来てにぎやかになります。菜の花を通じて地区住民だけでなく転出している人などとの交流も深めることができます。



伊予市に春の訪れを告げる 閩住の菜の花 花いっぱい運動

伊予市に春の訪れを告げる双海町閩住地区の菜の花。この季節になると大勢の人たちがこの地を訪れ、鮮やかに咲き誇る菜の花を前に記念撮影をして楽しみます。何もなかったこの地に、19年前、まちおこしの一環として取り組んだ「花いっぱい運動」。住民の熱意が、毎年満開の菜の花と訪れる人の笑顔を咲かせています。

菜の花を咲かせるため

咲き誇る菜の花の横にある小さなトンネルを通り、谷を少し上がると民家が点在しています。そこが、18

世帯で構成される閩住地区。住民全員で菜の花を管理しています。

平成5年、「エプロン会議」という女性のまちづくり組織がJRの斜面を利用して菜の花の種をまいたのをきっかけに、閩住地区の「花いっぱい運動」が始まりました。線路の斜面ということもあり、安全性の問題などがありました。関係者での話し合いを重ね、まちおこしの一歩を踏み出しました。

菜の花を咲かせるため、公民館役員を中心に草刈りや施肥、状況に応じて間引きや補植などを行います。作業は決して少なくありません。毎年繰り返しされる地道な作業とまちおこしへの思いが、市内外から大勢の花見客を呼び込む伊予市の春の風物詩を生み出しました。

閩住の菜の花は、暖かい春の兆しと、ふるさとを愛する住民の温もりを感じさせてくれます。



菜の花まつり



例年、菜の花が見ごろになる3月上旬の日曜日に、住民総出で「菜の花まつり」を開催しています。つきたてのお餅、地元住民が作った野菜や果物、地区の女性たちが腕によりをかけて作ったさまざまな加工品などの販売を行い、花見客に喜ばれています。また、同日開催される伊予長浜駅からふたみシーサイド公園までの16kmを歩く「しおかぜウォーク」も行い、たくさんの方との交流を楽しんでいます。

・開催日 3月4日(日)
・開催時間 9時～
※「しおかぜウォーク」なのはな大会は伊予長浜駅10時40分スタートです。

